

二〇一四年 二月

「今日の言葉」と「今日の聖語」についての紹介

今日の言葉

好ましいことばのみを語れ。そのことばは人々に歓び迎えらるる。
つねに好ましいことばのみを語っているならば、それによってひとの悪意を身に受けることがない。

『ウダーナヴァルガ』

仏教では、人間の行いのことを「業(ごう)」といいます。そして、その業には三種類あり、それらを合わせて「三業(さんごう)」といいます。まずは「身業」で、身体での行為、次は「口業」で、私たちが発する言葉のこと、最後は「意業」で、心のはたらきのことです。

今日の言葉を「三業」に照らし合わせてみると、「口業」に当てはまります。家族をはじめ、クラスやクラブ活動などみなさんは多くの人との繋がりの中にいます。やはり、自分で自己中心的な発言は慎むべきです。今日の言葉をしっかりと踏まえ、一度自分自身がどのような言葉を発しているか、あなたの「口業」を見つめ直してみましよう。

今月は釈尊を偲ぶ「涅槃会」が執り行われます。釈尊の教えに耳を傾け、心静かにお参りしましょう。

今日の聖語

心さえあれば、目の見るところ、耳の聞るところ、みなことごとく教えである。

『華嚴経』

これは『華嚴経』という經典に出てくる言葉です。この經典に出てくる善財童子(ぜんざいどうじく)という青年は仏法を求めるときで五十三人の人たちと出会います。その五十三人の人たちの性別や職業は様々です。例えば、医師からは人に対する慈悲の心を学びました。このように多くの人との出会いの中で、善財童子は仏法を学び「心さえあれば、目の見るところ、耳の聞るところ、みなことごとく教えである」という事を知ったのです。

さて、この言葉はみなさんの日常生活にも置き換えることが出来ると思います。私たちは、周りの人の姿や言葉をしっかりと自分自身に活かしているでしょうか。意外と自分の枠の中で過(こ)していることが多いと思います。求める心さえあれば、日常のいたるところに自分自身を成長させてくれるヒントがあるかも知れません。注意深くアンテナを張ることの大切さを改めて教えてくれる言葉だと思います。